

15 農産物の輸入

多くの農産物を外国にたよっている日本は、安定した輸入ができるでしょうか。

問 下の資料を見て、日本は、どこの国や地域からどんな農産物を輸入しているか、調べてみましょう。

日本に輸入される主な農産物



特定の国にたよる農産物の輸入

ココが大切!

日本は多くの農産物を外国から輸入していますが、全体の61.6%をアメリカ合衆国、中国、オーストラリア、カナダ、ブラジル、タイの6つの国が占めています。

ASEANとEU

ASEAN(東南アジア諸国連合)とは、東南アジアの国々が集まってつくった一つのまとまりです。2014年11月現在、10カ国が加盟しています。
EU(ヨーロッパ連合)とは、ヨーロッパの国々が集まってつくった一つのまとまりのことです。2014年11月現在、28カ国が加盟しています。

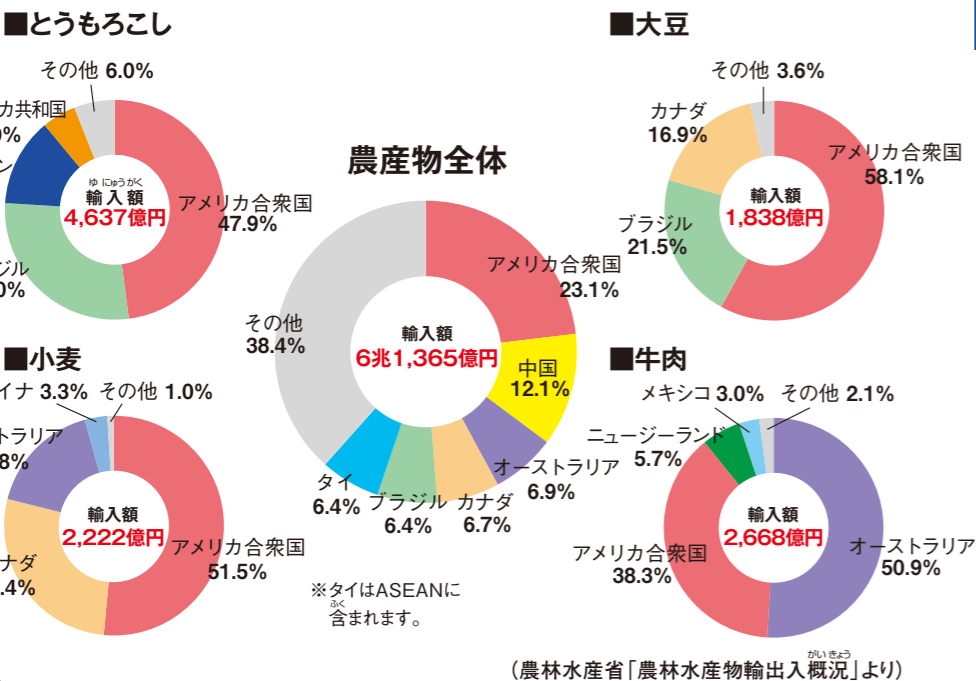
ふかめる

国産と輸入農産物のねだん

日本の農家1戸当たりの農地面積は平均2haですが、アメリカ合衆国はその約75倍、オーストラリアは約1,300倍の広さです。輸入農産物は、広い土地で効率的に大量生産しているため、国産のものよりねだんが安い場合が多いです。例えば、2013年の場合、国産標準品(品質や、さいばい方法などが特別でないもの)のかぼちゃは1kg418円で、輸入したかぼちゃは1kg243円でした。また、にんじんは国産標準品が1kg238円、輸入品が1kg160円でした。

(農林水産省「生鮮食品価格・販売動向調査」より)

主な農産物の輸入相手国(2013年)

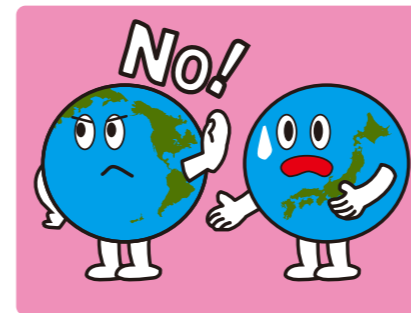


問 どんなときに、食料の輸入ができなくなるか、調べてみましょう。



輸入禁止

輸入相手国で鳥インフルエンザや口蹄疫、BSE(牛の病気)などの家畜の伝染病や、農作物の病気が発生したときには、病気を日本の国内に持ちこまないようにするため、日本が食料の輸入を禁止することもあります。



外国の輸出制限

輸入相手国が、洪水や干ばつなどの自然災害や異常気象などによって不作になったり、食料のねだんが大きく上がった場合には、自分の国の人たちの食べ物を優先して確保するため、日本への輸出を制限することがあります。

日本の食料の輸入をとりまく環境

ココが大切!

世界で人口増加などによって必要な食べ物の量が増えたり、地球温暖化などの影響で農産物をつくる環境が変化したりしています。そのために、日本が海外から輸入できる農作物が少なくなったり、農作物が不足してねだんが上がったりするなど、さまざまな影響をうけると考えられています。

食べ物の廃棄

日本は多くの食料を輸入にたよる一方で、まだ食べられる物をすてています。その量は、年間500万~800万トンになります。これは、世界の食料不足の地域への、年間食料援助量約400万トンのほぼ2倍です。(農林水産省・WFP調べ)

もしも食料が輸入できなくなったら、わたしたちの食生活は、どのようになると思いますか。

フード・マイレージ

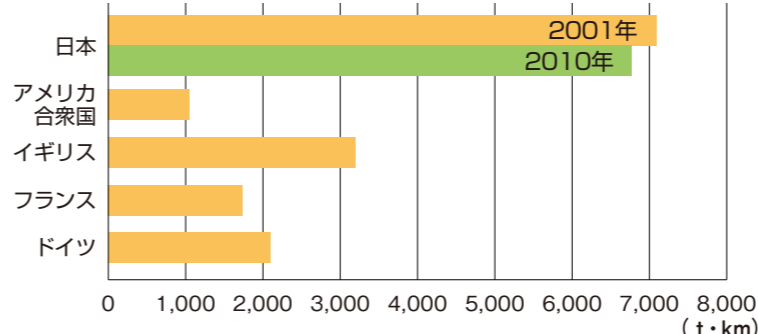
食料輸送量に、輸送きよりをかけたものを「フード・マイレージ」といいます。同じ量を運ぶとき、輸送するきよりが少ないほど、フード・マイレージは小さくなります<=>P.31ココが大切! 地産地消>。

輸入食料のフード・マイレージ

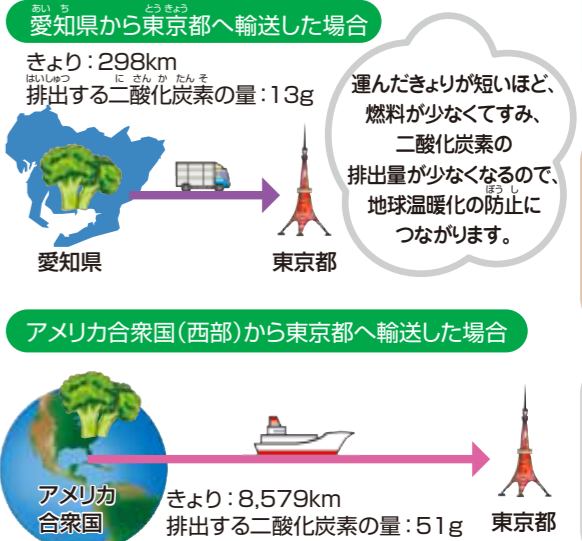
$$\text{フード・マイレージ (t・km)} = \text{輸入相手国別の食料輸入量 (t)} \times \text{輸出国から日本までの輸送きより (km)}$$

※t・kmlはフード・マイレージの単位で、1t・kmlは1tの荷物を1km運ぶこと。

人口1人当たり輸入食料のフード・マイレージ



ブロッコリー1個(250g)の場合



もっとくわしく JFTCキッズサイト で 検索 (一般社団法人 日本貿易会)